

# 2015 年度 卒業時アンケート 結果報告【短期大学】

## 目次

1. 調査の概要 .....	1
2. 本学に入学してよかったか .....	2
3. 学修の満足度 .....	2
4. 建学の精神の社会的実践 .....	3
5. 在学中に力を入れたこと .....	3
6. 身についた力 .....	4
7. 学修状況 .....	4
8. 進路満足など .....	5
9. 大学に対する意見 .....	6
10. まとめ .....	6

---

## 1. 調査の概要

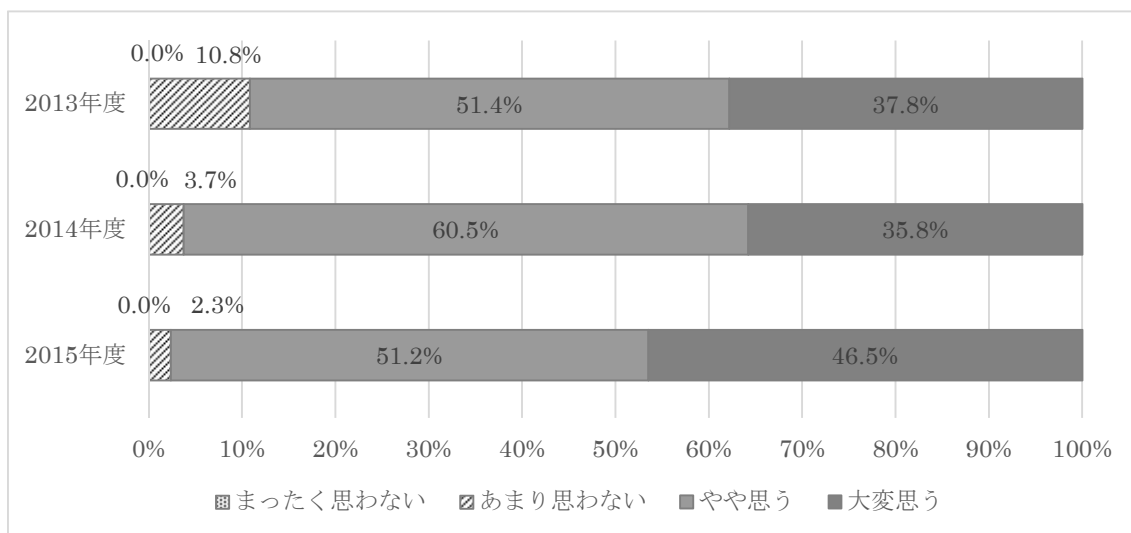
本報告は、京都外国語短期大学における 2015 年度 3 月の卒業生を対象として、本学に対する印象や在学中の学修状況などを把握することを目的に実施したアンケートの結果を集計したものである。調査は、2015 年度の卒業式の際に調査票を配布し、その場で記入してもらい記念品と引き換えに回収した。2015 年度 3 月の卒業生数 119 名であるが、そのうち 86 名から有効な回答を得た。

[表 1] 調査の回収状況

男	女	全体
40(67.5%)	79(74.7%)	86(72.3%)

## 2. 本学に入学してよかったか

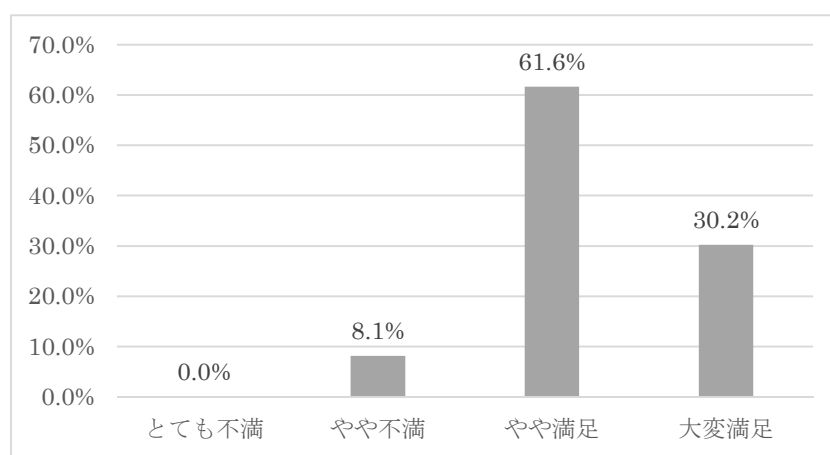
調査では、「京都外国語短期大学に入ってよかったと思いますか」として、「大変思う」「やや思う」「あまり思わない」「まったく思わない」から選択してもらった。集計の結果、「大変思う」と「やや思う」を合わせると9割を超えており、多くの学生が本学に入学してよかったと感じていることがわかる。この質問は過年度の卒業生調査にも含まれているが、年度間で比較すると過年度よりも「あまり思わない」と回答する学生が減少しているように見えるが、統計的に有意な差はない。卒業生における満足感、例年に引き続き高い水準を維持しているといえる。



[図1] 入学してよかったか

## 3. 学修の満足度

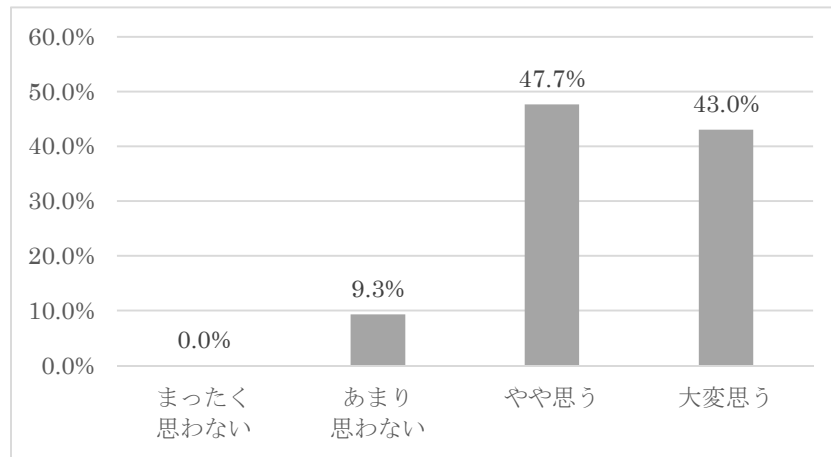
学修の満足度については、「大変満足」「やや満足」「やや不満」「とても不満」の4段階で回答してもらった。ここでも9割以上の学生が「満足」と回答しており、大半の学生が本学での学びに対して一定の満足感を感じていることがわかる。



[図2] 学修の満足度

#### 4. 建学の精神の社会的実践

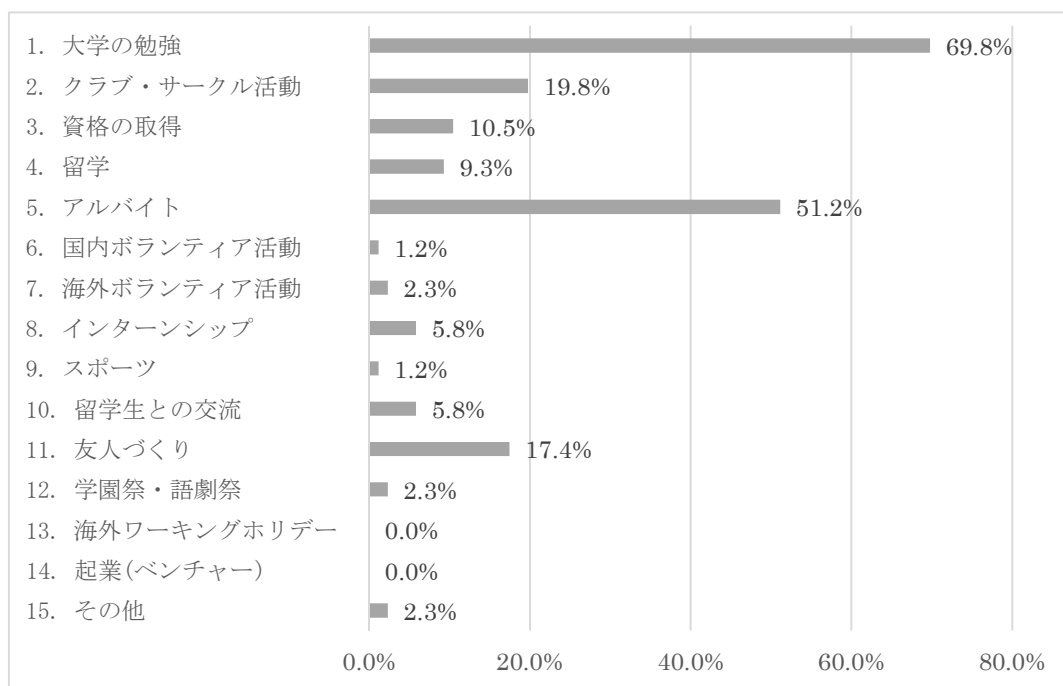
「言語を通して世界の平和を」という本学の建学の精神を、卒業後の社会生活において実践しようと思うかどうかをたずねた質問の集計結果を示す。多くの学生が、本学で学んだ建学の精神を何らかの形で社会生活のなかで実践していこうと考えていることがわかる。また、本学の教育を通して建学の理念が学生に十分に浸透していることがうかがえる。



[図 3] 学修の満足度

#### 5. 在学中に力を入れたこと

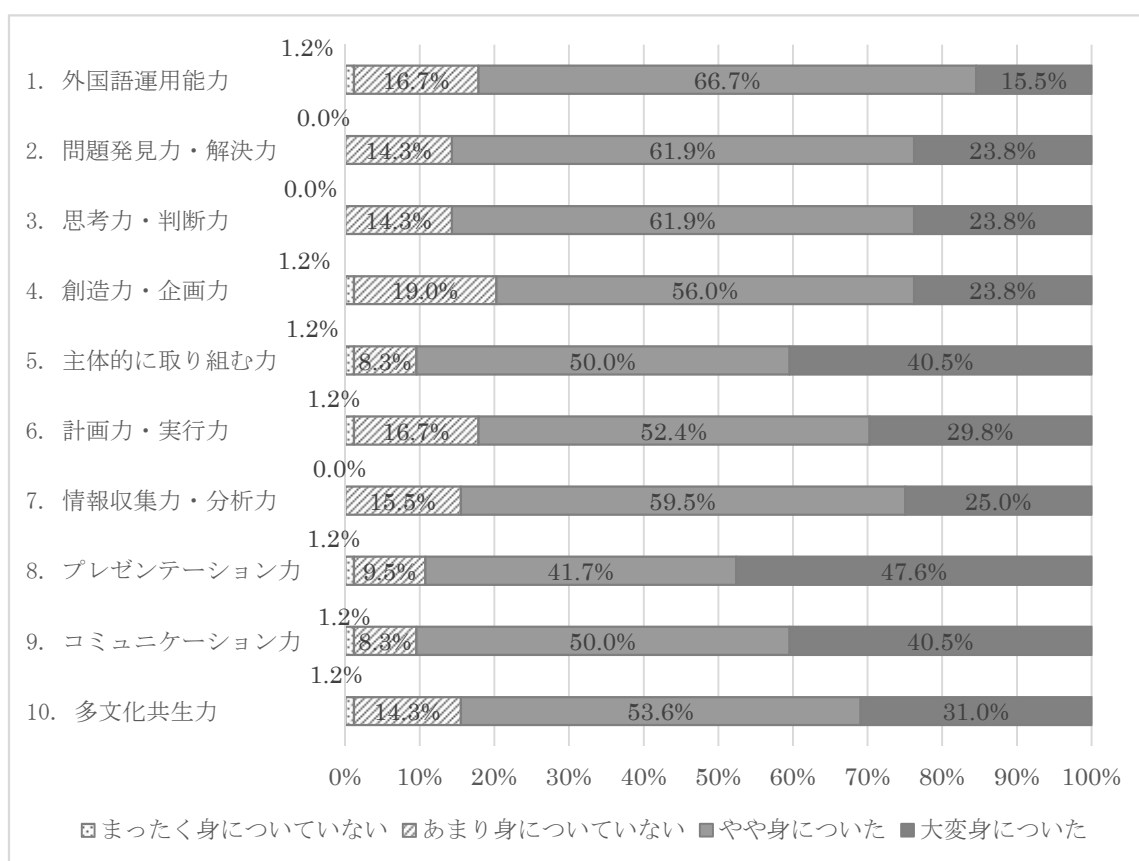
在学中に力を入れて取り組んだことについて、15の項目を挙げて複数回答形式でいくつでも選択してもらった。最も言及が多いのは「大学の勉強」で、半数以上の学生が力を入れたと回答している。次いで言及が多いのが「アルバイト」である。本学の学生は正課の「大学の勉強」、学外での「アルバイト」といった活動を軸に大学生活を送っていることが想像できる。また、短期大学は大学とは異なり、クラブやサークルなど課外活動はあまり活発ではないようである。



[図 4] 在学中に力を入れたこと

## 6. 身についた力

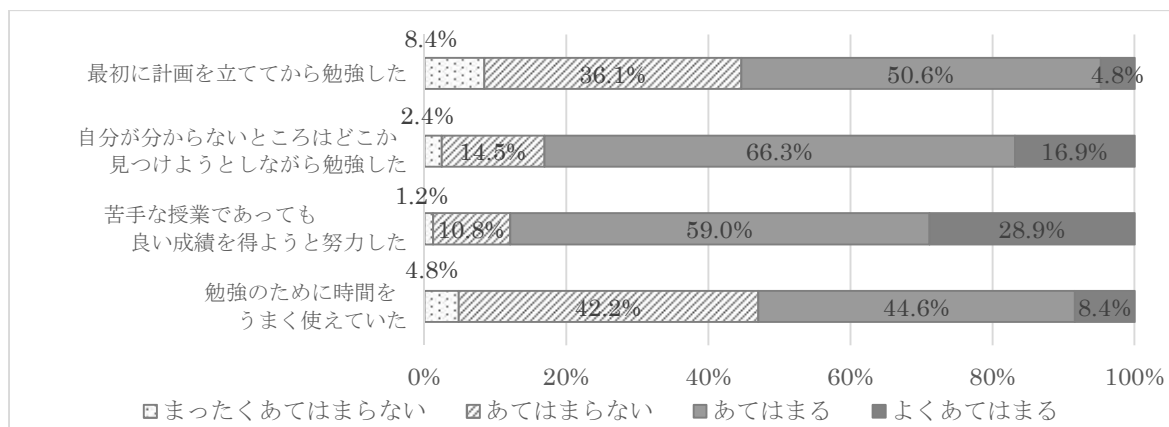
本学では社会的・職業的自立を図るために必要な能力として、「構想するために必要な力」「実践するために必要な力」「協働するために必要な力」の3つの要素を掲げ、それぞれの要素について3つの力を設定し、卒業までにこれらの力を要請するべくカリキュラムや教育プログラムを編成している。この9つの力に加えて、外国語大学として養成すべき最重要な能力として「外国語運用能力」を加えた10項目について、学生自身がそれぞれの程度身についたと思うかを回答してもらった。集計結果をみると、すべての項目において多くの学生が「身についた」と感じていることがわかる。卒業した学生は総じて、本学が教育課程において養成しようとする力を一定程度身につけることができた、と感じているようである。個別の項目をみると、「コミュニケーション能力」や「多文化共生力」「主体的に取り組む力」において「大変身についた」と回答する学生が多く、本学の教育課程を通して要請される力の特徴の一端がうかがえる。



[図5] 身についた力

## 7. 学修状況

大学での学修状況に関して、4つの項目についてそれぞれの程度当てはまるのかをたずねた。回答の分布として「あてはまる」「よくあてはまる」への言及が相対的に多いのは、「2. 自分がわからないところはどこか見つけようとしながら勉強した」「3. 苦手な授業であっても良い成績を得ようと努力した」である。他方で、「1. 最初に計画を立ててから勉強した」「4. 勉強のために時間をうまく使っていた」については、「あてはまる」「よくあてはまる」への言及が少ない。学修の方法については比較的好ましい傾向がみられるようであるが、学修計画や時間の使い方など計画的な学修については改善の余地が残されているようである。

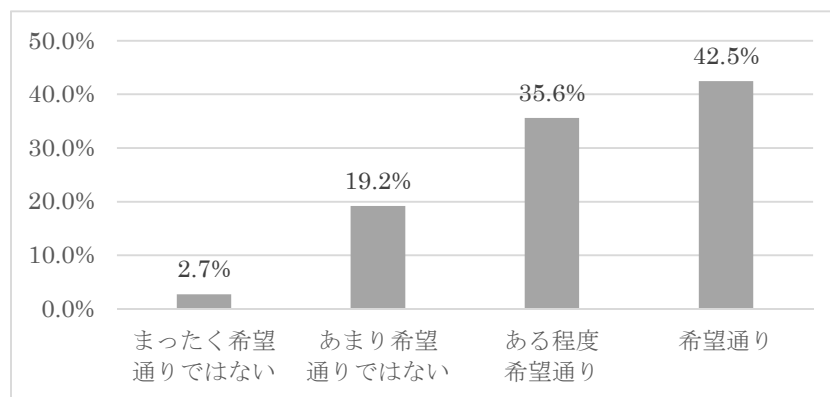


【図 6】学修状況

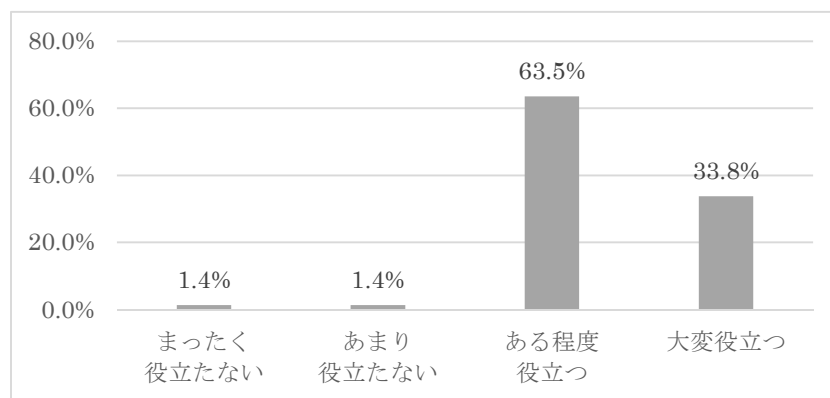
## 8. 進路満足など

卒業後の進路について、希望に沿ったものであるかをたずねた。多くの学生が「ある程度希望通り」「希望通り」と回答しており、概ね希望に沿った進路に進むことができているようである。しかし、卒業後の進路が希望に沿わない学生も2割程度は存在しており、進路に関する支援のいっそうの充実を図る必要があるだろう。

大学で学んだことが、卒業後の進路において役立つかどうかをたずねたところ、9割以上の学生が「役立つ」と回答している。短期大学の卒業後の主要な進路として、大学への編入や就職などが考えられるが、いずれの進路においても、大学で学んだことを活用するイメージが一定程度持てているようである。



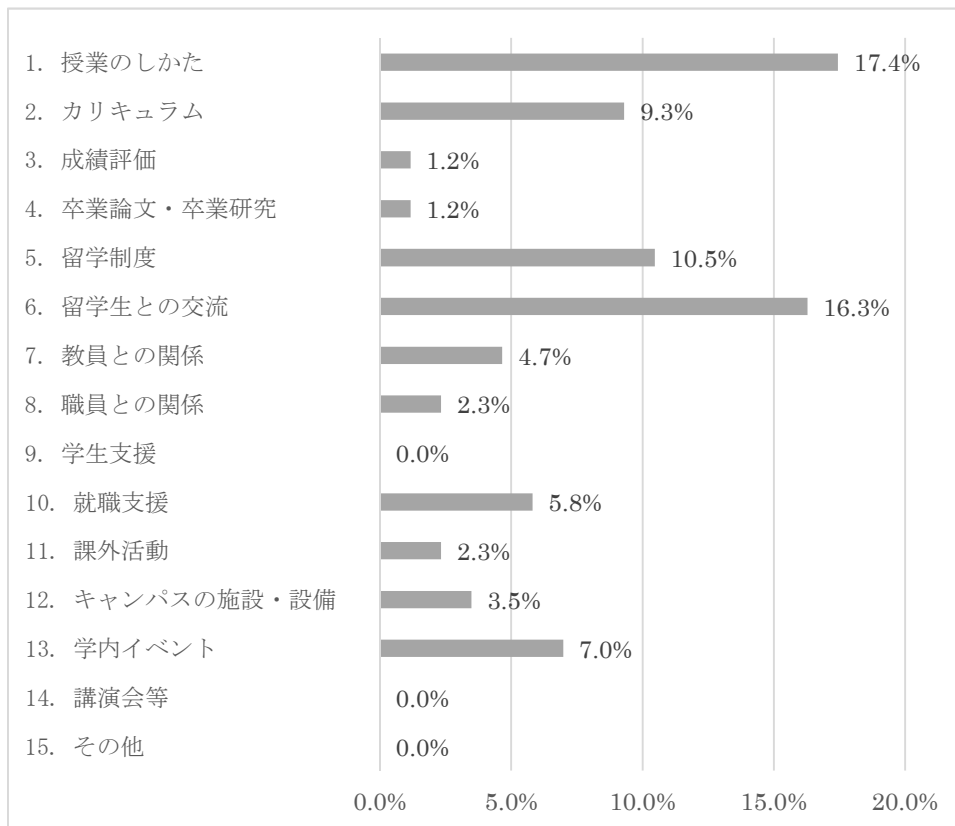
【図 7】進路が希望通りか



【図 8】大学で学んだことが進路において役立つか

## 9. 大学に対する意見

調査では、大学に対して意見がある項目を選択してもらい、その項目について自由に意見を述べてもらった。ここでは意見の内容にかかわらず、それぞれの項目について意見がある学生の数を集計した。比較的多くの学生が何らかの意見を持っているのが、「授業のしかた」「留学制度」「留学生との交流」などである。大学生活の中心となる授業について数多くの意見が寄せられていることがわかる。



[図 9] 大学に対する意見の数

## 10. まとめ

本調査の結果から、卒業生は学修の成果として、教育課程において養成されるべき力が身についたという手応えを、ある程度は得ていることがうかがえる。また、進路についても概ね希望に沿ったものとなっているようである。大学での学修の満足度も高く、総じて本学を卒業したことを「よかった」と感じている。本学の教育内容は、概ね卒業生を満足させることができているといえるだろう。ただし、この調査は卒業式の日を実施したものであるため、回答分布が全体としてポジティブな方向にシフトしている可能性がある。調査の時期や方法についても検討が必要だろう。